

目次

第32回研究発表大会のお知らせ	1p	機器展示	8p
企画セッション（聴講無料）	1p	分科会報告	8p
大会優秀発表賞およびポスターセッション賞	4p	GIS資格認定協会より	8p
第32回研究発表大会 日程表（9月5日版）	5p	学会からのお知らせ	8p
第32回研究発表大会 アクセスマップ	6p	学会後援行事等のお知らせ	9p
第32回研究発表大会 会場配置図	7p		

第32回研究発表大会のお知らせ

第32回地理情報システム学会学術研究発表大会を、電気通信大学（東京都調布市）にて10月28日（土）・29日（日）に、対面のみで開催いたします。また、今回は International Association of Geo-informatics (IAG'i) との併催です。講演発表やポスター発表、シンポジウムやワークショップ、ハンズオンセッションなど多彩な企画に加え、懇親会もございますので、奮ってご参加下さい。

詳細は大会ホームページをご覧ください。大会開催まで変更の可能性があるので、必ず最新の情報をご確認ください。

なお、平成27年度より、講演発表・ポスター発表の発表者には、測量CPD学習プログラムのポイントが付与されます。大会で発表した場合、(1)領収書は「GIS上級技術者」への申請にお使いいただけます。(2)「測量系CPD学習プログラム」への申請を希望する方は、**大会後にメールで事務局へ「氏名」「発表番号」「発表タイトル」**をご連絡下さい。

日 程： 2023年10月28日（土）・29日（日）

会 場： 電気通信大学（東京都調布市）

大会 C棟・新C棟

懇親会 学生会館2階 生協食堂

大会参加費：

正会員または賛助会員 6,000円（早期登録* 4,000円）

学生会員 4,000円（早期登録* 3,000円）

非会員 8,000円（早期登録* 7,000円）

高校生以下、70歳以上 無料

（年齢を証明するものをご提出下さい）

企画セッションのみ 無料（申込は不要です）

懇親会費：

正会員または賛助会員 6,000円（早期登録* 5,000円）

学生会員 6,000円（早期登録* 4,000円）

非会員 7,000円（早期登録* 6,000円）

*早期登録は9月30日までの受付です。

※現地では受付しません。オンラインでお申し込みください。

◆企画セッション（聴講無料）◆

10月28日（土）開催

◆ワークショップ・ハンズオン◆

【空間情報システムから空間知能システムへ／GIS・AIのコンバージェンス】

日 時：10月29日（土）8:20-10:20 ワークショップ
10:40-12:20 ハンズオン

会 場：A会場

企 画：厳網琳・片山耕治・大場章宏・福井エドワード

近年 ChatGPT で代表されるように生成系 AI (Artificial Intelligence) 技術が目覚ましく発展し、GIS にも波及し始めている。「Everything Happens Somewhere」(ITU) と言われるように、GIS の新たな AI 時代に向かっている。国際電気通信連合 (ITU) の AI for Good プラットフォームでは GeoAI が主要テーマとして展開し、GeoAI Challenge を始めている。米国地理学会 (American Geographical Society) や UCGIS (GIS 大学コンソーシアム) に GeoAI Initiative が設置されている。バファロー大学には GeoAI Lab が設置されている。国内において産業界では AI for GIS や GIS for AI の研究が盛んに行われて、産業応用が急速な展開を見せている。こうした動きの中、本学会も2023年4月より GeoAI 分科会を設置し、調査研究を始めている。2023年7月25日に第一回 GeoAI Open Talks 「AIによって拡張・深化する GEO」を開催し、多数の参加者のもとで活発な議論を展開した。

このセッションはそこでの議論を発展し、学術研究や産業応用を代表するパネリストから GeoAI に関するデータ、ツール、基盤モデル、標準、社会応用をさらに議論し、GeoAI の可能性、課題、発展方向を検討する。

◆ハンズオン◆

【Metashape による空中写真からの DSM・3D モデル生成】

日 時：10月28日（土）8:40-10:20
会 場：B会場
企 画：桐村喬

国土地理院が地図・空中写真閲覧サービス上で公開している空中写真データには、古いものでは戦前の陸軍撮影のものが含まれ、様々な時代の日本の国土の姿が写された空中写真をダウンロードできる。これらの空中写真データを活用して、DSM や 3D モデルなどを生成していくことで、PLATEAU では把握できない、過去の時代の 3 次元的な空間解析が可能になる。

そこで、本ハンズオンセッションでは、フォトグラメトリソフトウェアである Metashape を用いて、国土地理院が公開している、400dpi の高解像度空中写真データから、位置精度の高い DSM、オルソ写真、3D モデルなどを生成する作業手順の解説を行うとともに、得られたデータの解析方法やソフトウェアの使用方法などについての情報共有も行いたい。

◆シンポジウム◆

【学生フリーテーマ発表会】

日 時：10月28日（土）10:40-12:20
会 場：B会場
企 画：関口達也

若手分科会では、研究発表大会が学生のみなさんにとっても成果発表の場および研究交流の場になってほしいと考え、本年度も「学生フリーテーマ発表会」を企画します。今年度は、研究発表セッションを開催します。このセッションは一定の研究成果が出ている学生さんを対象に、通常の口頭発表セッションに近い形で実施します。優秀な研究発表と将来性のある研究テーマについて、それぞれ分科会として表彰を行う予定です。

いずれも学生さんであれば学年や分野、個人・共同を問わず発表できます。他大学、他分野の学生さんと交流する機会としてぜひ発表をご検討ください。

発表募集など詳しくは若手分科会のサイトでご案内しています (<https://sites.google.com/view/gisa-wakate/>)。

※ セッション内での発表申し込みは、8 月頭～中旬頃を予定しています

※ 梗概の提出は任意です。提出された梗概は、大会期間中、若手分科会サイト上での公開を予定しています(大会論文集には採録されません)。

◆シンポジウム◆

【IAG' i Keynote Speeches】

日 時：10月28日（土）13:50-14:50
会 場：D会場

International Association of Geo-informatics (IAG'i) の 3 学会の会長による基調講演が行われます。

◆シンポジウム◆

【第 18 回マイクロジオデータ研究会「人流データの現状と幅広い利活用の実現に向けた展望と課題」】

日 時：10月28日（土）15:00-18:40
会 場：A会場
企 画：秋山祐樹

2011 年に発足した本研究会は、マイクロジオデータ (MGD: 位置情報や時間情報を持つ時空間的に高精細なデータや統計の総称) の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来ました。MGD は既存の各種統計・空間データでは実現し得なかった、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。

今回の MGD 研究会では、近年、産官学問わず注目が高まりつつあり、その有用性も広く認知されはじめている人流データについて、産官学の有識者からその現状と最新の研究・取り組みについてご紹介頂きます。また、人流データを産官学様々な場面でこれまで以上に幅広く利活用していく上で、今、そしてこれから取り組むべき内容や課題などについて議論を深めたいと考えています。

◆シンポジウム◆

【2023 年度 GIS 教育実践アワード表彰式および表彰事例報告会（教育委員会）】

日 時：10月28日（土）15:00-16:40
会 場：B会場
企 画：塚本章宏

本セッションでは、2023 年度「GIS 教育実践アワード」の表彰式と、表彰者による事例報告会を行う。

「GIS 教育実践アワード」は、教育現場で GIS を活用する先進的な事例を表彰するとともに、表彰者による事例報告会を行い、教材開発に関するノウハウや解決すべき課題などの情報を交換する機会とする。

GIS の活用能力と習得の必要性は、日本学術会議の提言や学習指導要領、特に高等学校の必修科目「地理総合」において、明確に位置付けられている。そうしたなかで、本事業は、GIS の普及と展開を促進し、より効果的な GIS 教育の実践を支援することを目的としている。

なお、この表彰事業は、昨年度まで「初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰」として実施されていたが、今年度から「GIS 教育実践アワード」という名称に変更されている。

◆シンポジウム◆

【教育におけるデータサイエンスと地理情報：実践と課題（教育委員会）】

日 時：10月28日（土）17:00-18:40
会 場：B会場
企 画：塚本章宏

近年、データサイエンスに特化した学部や科目が設立され、様々な教育現場でプログラミングが取り込まれるようになってきた。これまで、地理情報を扱う際には、GIS ソフトウェアを用いて、GUI を介して地図を作成・分析する方法が教え

られてきた。しかし、プログラミングによる地図作成では、特定のプログラミング言語やライブラリを使用して地図を生成し、データ解析と統合する方法が主流となっている。

本企画セッションでは、GIS とデータサイエンスの両分野に渡って、研究・教育に取り組まれている方々を講師として招聘し、地理情報の扱い方や地図の作成法に関する共通点や相違点、そして教育方法などを、実践事例報告を交えながら、より深く理解する機会としたい。

◆シンポジウム◆

【調布市×電気通信大学セッション】

日 時：10月28日（土）15:00-18:40
会 場：C会場
企 画：山本佳世子

今年度の本学会の学術研究発表大会は、東京都調布市の電気通信大学で開催される。調布市は、人口 234,266 であり、東京 23 区に隣接し、都心へのアクセス条件が良い住宅地である。しかし、古刹深大寺をはじめとした古い神社・仏閣があり、市内の様々な場所に武蔵野の自然が残っている。調布市では、市民活動、商店街の活性化・まちづくりなどの様々な独自の活動が活発に行われている。

一方、電気通信大学は調布市内に立地する中規模大学で、幅広い理工系分野の教育・研究活動を行っている。電気通信大学は日本全国に開かれた大学を創ろうという精神に基づき、学部を持つ国立大学の中で唯一、大学名に地名を含んでいない。また、地元の調布市との相互友好協力協定を結び、様々な分野において継続的な連携を推進している。

本セッションでは、調布市と電気通信大学の関係者が話題提供を行い、参加者に学術大会の開催地について紹介することを目的とする。学術研究発表大会の参加者にぜひご参加いただき、学術大会の開催地について知っていただきたい。

◆企画セッション（聴講無料）◆

10月29日（日）開催

◆ワークショップ◆

【日本における住所・土地のデータ化を巡る新展開：アドレススペースレジストリと地図 XML を事例に（自治体分科会・FOSS4G 分科会）】

日 時：10月29日（日）9:00-12:40
会 場：A会場
企 画：青木和人・岩崎亘典・瀬戸寿一

土地「地番（lot number）」を示すデータは、2023 年 1 月に法務省から登記所備付地図データ（地図 XML）が全国分公開され、現在、それを利用した Web サービスが展開されつつある。しかし、本データがどのような目的で整備され、住所とどのように異なるのかは十分に理解されていない。一方、住居表示に代表される「住所（address）」は、我々にとって最も身近に利用されている位置を示す情報であるが、これまで包括的かつ自由に使用できるデータ整備は限定的であったが、デジタル庁にてアドレススペースレジストリが整備された。そんな中、2023 年 6 月にマイナンバーカードの情報登録にお

いて、住所情報の表記揺れ問題が社会的に認知された。これは、住所データ活用が容易でないことを示している。

これらを踏まえて、本セッションでは土地地番や住所の違いやそれぞれに関わるどのようなデータが存在するのかを整理し、行政における制度的運用や実態を踏まえて、データ活用のための取り組みや技術的留意点について議論する。

◆シンポジウム◆

【デジタルアース研究の現状と将来展望（2023）】

日 時：10月29日（日）9:00-10:40
会 場：B会場
企 画：福井弘道

中部大学国際 GIS センターは、2014 年に文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定を受け「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として、GIS をはじめ、情報科学、リモートセンシング、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバー空間上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を推進してきました。さらに環境、災害、感染症等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献することを目的としています。

本セッションでは、2022 年度の拠点の共同研究成果の報告と、関連研究者によるパネル・ディスカッションを行い、デジタルアース研究分野と問題複合体への学術によるアプローチについて展望します。

◆シンポジウム◆

【シビックテックと防災 GIS（防災 GIS 分科会）】

日 時：10月29日（日）11:00-12:40
会 場：B会場
企 画：畑山満則

新型コロナウイルス感染症化において関連情報の発信において、シビックテックの活躍は記憶に新しいが、防災分野においても、2011 年に発生した東日本大震災を機に、地理空間情報を活用したシビックテックが注目されることとなった。また、2011 年以降、毎年日本を襲っている水害・土砂災害においても、令和元年東日本大震災時の ONE NAGANO や令和 3 年熱海での土石流災害などでシビックテックの活躍が目立った。気候変動の影響で巨大化・広域化・頻発化する水害・土砂災害、発生が懸念される南海トラフ巨大地震に代表される巨大地震においても、情報系の災害支援は期待されるところである。

本企画セッションでは、近年の災害において注目された災害時のシビックテックについて話題提供を行い、今後の地理空間情報を活用したシビックテック活動の在り方を議論するとともに、防災におけるシビックテック学の可能性について議論を行う。

◆ハンズオン◆

【データサイエンスのための GIS 講座】

日 時：10月29日（日）9:00-10:40
会 場：C会場
企 画：土田雅代

二酸化炭素排出量などのデータの空間パターン、傾向、外れ値、異常値を視覚化し、仮説を立てて解析を進めていくことで新たな気づきを発見することが可能になります。

ArcGIS OnlineのAppsであるArcGIS Dashboardsを使うことで地図表現とグラフが連動し、より視覚的にわかりやすく表現することができます。今回はそのようなデータをどのように可視化するかを議論しながら実際にダッシュボードを作成します。必要なライセンスは、ESRIジャパンにて準備しますので当日は、PC持参をご持参ください。

◆ハンズオン◆

【ArcGIS API for Python 体験】

日 時：10月29日（日）11:00-12:40
会 場：C会場
企 画：土田雅代

Pythonをブラウザ上でインタラクティブ（対話的）に実行できるツールであるJupyter Notebookを利用して Webマップと地理空間データを扱うためのPythonベースのAPIを体験します。

ArcGIS Onlineのライセンスは、弊社にて準備します。当日はPCをご持参ください。

◆シンポジウム◆

【SIG-GIS シンポジウム】

日 時：10月29日（日）14:10-15:50
会 場：A会場
企 画：太田守重

地理空間情報に関連する標準化は、1990年代から本格化し、それ以来、汎用的かつ基本的な標準、応用分野に特化した標準、そして標準に準拠する各種の仕様などが整備されることにより、地理空間データの交換や活用が促進されつつある。一方、数多くの標準や仕様が生まれることにより、このままでは、それらの関係が複雑化し、フォーマット、データ品質、用語定義の違いなどが原因となって、異なる応用分野で作られたデータの共用や統合を行う際に、障害が起きることが危惧される。そこで、地理空間情報標準調査会（SIG-GIS）は、信頼性の担保されたデータの主権を守りつつ、広く共用するためのルールや仕組みを検討するものである。

このシンポジウムでは、GIS学会の会員及び関係者の皆様に、会の趣旨をご理解いただき、ご協力いただくことを目指して、SIGのメンバーを中心に、国内外の地理空間情報に関わる標準や仕様の制定の経緯と現状について発表し、今後の発展可能性を議論する。

◆シンポジウム◆

【ジオテクノロジーズの提案する地図・人流データ×リサーチ ～予測可能な世界の創出に向けて～】

日 時：10月29日（日）14:10-15:50
会 場：B会場
企 画：中野裕貴

ジオテクノロジーズは日本でも数少ない地図データの調査から、地図の作成・販売までをすべて行っている会社です。近年ではトリマというアプリを用いた人流データの収集により、これまで以上のビッグデータの収集が可能となりました。ジオテクノロジーズの強みである地図・人流データ×リサーチを用いた社会課題解決ツールについて実例を踏まえてご紹介いたします。また、当社では、それらの強みを活かした産学連携による共同事業開発の取り組みも開始しております。日々研究に携わられている大学関係者や学生の皆さまへのヒアリング結果や他社事例も交え、双方にとって Win-Win な関係を目指した当社の産学連携案についてご紹介いたします。

◆大会優秀発表賞およびポスターセッション賞◆

【第19回大会優秀発表賞】

対象者は、本学会の学生会員（年会費完納者）で、修士号未修得の、口頭発表発表者に限られます。研究・論文・発表の内容が優れた発表者を司会者や審査員が推薦し、学会賞委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。受賞者は閉会式で発表します。

受賞者には賞状を後日送付し、ニューズレター128号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol.31, No.2に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11月15日（水）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

【第12回ポスターセッション賞】

ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。投票方法は、参加登録者に別途ご案内いたします。なお、今回、ポスターセッションは2日に分けて開催し、指定された1セッションで発表していただきます。受賞者は閉会式で発表します。

受賞者には賞状を後日送付し、ニューズレター128号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol.31, No.2に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11月15日（水）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

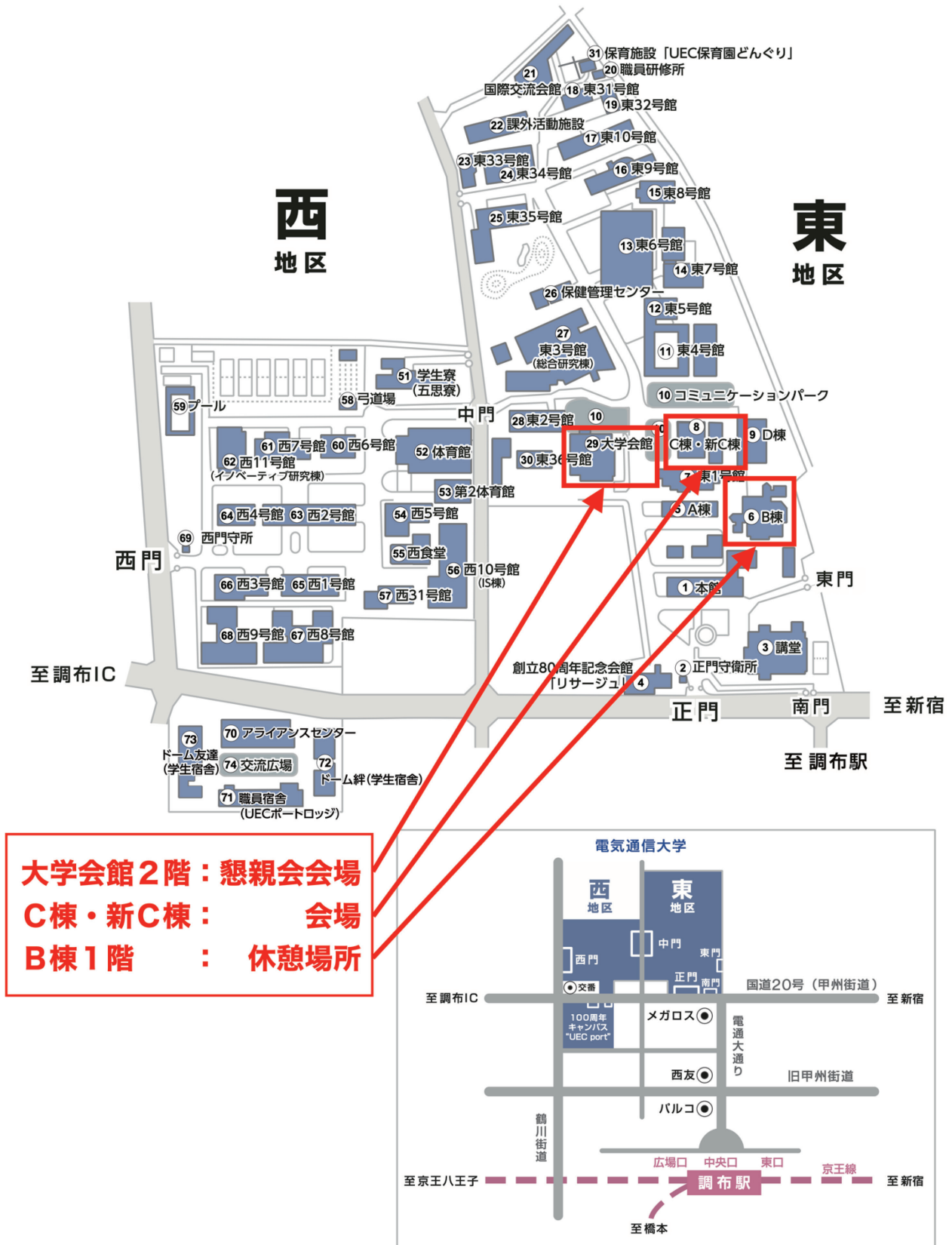
（◆機器展示◆は8ページに掲載）

第32回研究発表大会 日程表（9月5日版）

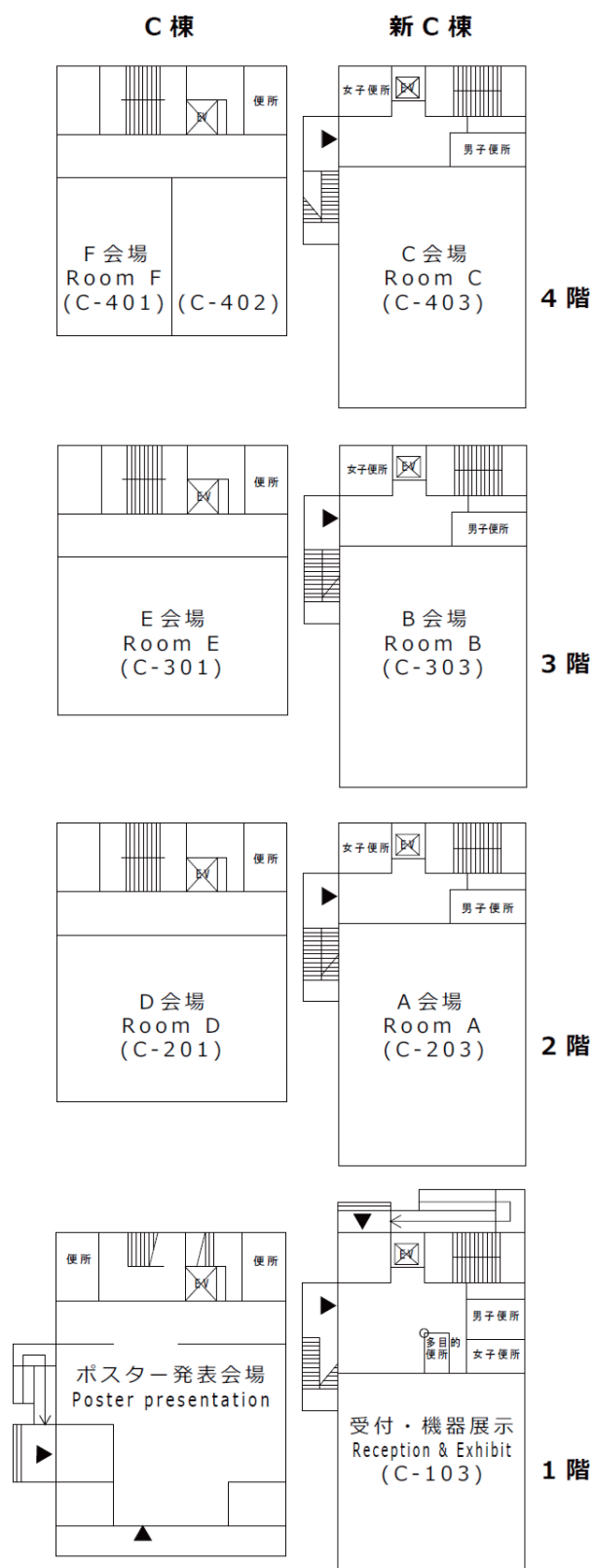
- ※ 企画セッション以外の、口頭発表およびポスター発表セッションへの参加には、参加登録と大会参加費が必要です。
- ※ 企画セッションの参加は、企画によって登録が必要な場合があります（参加費は不要）。
- ※ 「赤色」はシンポジウムやワークショップの企画セッションです。
- ※ 「紫色」はハンズオンの企画セッションです。
- ※ 「オレンジ」はポスター発表セッションです。
- ※ 「水色」は英語による口頭発表セッションです。
- ※ 「緑色」は日本語による口頭発表セッションです。
- ※ 開始時間等が変更になる場合もあります。最新情報は必ず大会webページでご確認ください。

10/28 [Sat]	A会場 (C-303 新C棟2階) Room A [C-303 2nd floor of New Bldg. C]	B会場 (C-303 新C棟3階) Room B [C-303 3rd floor of New Bldg. C]	C会場 (C-403 新C棟4階) Room C [C-403 4th floor of New Bldg. C]	D会場 (C-201 C棟2階) Room D [C-201 2nd floor of Bldg. C]	E会場 (C-301 C棟3階) Room E [C-301 3rd floor of Bldg. C]	F会場 (C-401 C棟4階) Room F [C-401 4th floor of Bldg. C]
1 8:40 10:20	A1 企画セッション 空間情報システムから 空間知能システムへ GIS・AIのコンバージェンス ワークショップ 企画者: 鹿 綱 琳・片山 耕治・ 大場 草宏・福井 エドワード	B1 企画セッション (ハンズオン) Metashapelによる 空中写真からのDEM・3Dモデル 生成 企画者: 梶村 貴		[9:20] D1 Regional Analysis #1	[9:00] E1 Landscape	[9:20] F1 教育
2 10:40 12:20	A2 企画セッション (ハンズオン) 空間情報システムから 空間知能システムへ GIS・AIのコンバージェンス ハンズオン 企画者: 鹿 綱 琳・片山 耕治・ 大場 草宏・福井 エドワード	B2 企画セッション 学生フリーテーマ発表会 (若手分科会) 企画者: 関口 達也		D2 Regional Analysis #2	E2 Environment	F2 空間解析手法1
P1 12:40 13:40	ポスターセッション #1 & Poster Presentations for IAG'I @ポスター発表会場 (C棟1階 ホール) Poster Presentations (Hall, 1st floor of Bldg. C)					
K 13:50 14:50	IAG'I Keynote Speeches					
3 15:00 16:40	A3 企画セッション 第18回マイクロジオデータ研究 会 「人流データの現状と幅広い利 活用の実現に向けた展望と課題」 企画者: 秋山 祐樹	B3 企画セッション 2023年度 GIS教育実践アワード 表彰式および表彰事例報告会 (教育委員会) 企画者: 塚本 草宏	C1 企画セッション 横浜市・電気通信大学セッション 企画者: 山本 佳世子	[15:20] D3 Disaster	E3 Mobility, Transportation, and Navigation	[15:20] F3 自治体
4 17:00 18:40		B4 企画セッション 教育におけるデータサイエンス と 地理情報: 実践と課題 (教育委員会) 企画者: 塚本 草宏		D4 Data	E4 Spatial Analysis	F4 避難・滞留人口
19:00 21:00	懇親会 Banquet @ 大学会館2階 生協食堂 2nd floor of University Center					
10/29 [Sun]	A会場 (C-203 新C棟2階) Room A [C-203 2nd floor of New Bldg. C]	B会場 (C-303 新C棟3階) Room B [C-303 3rd floor of New Bldg. C]	C会場 (C-403 新C棟4階) Room C [C-403 4th floor of New Bldg. C]	D会場 (C-201 C棟2階) Room D [C-201 2nd floor of Bldg. C]	E会場 (C-301 C棟3階) Room E [C-301 3rd floor of Bldg. C]	F会場 (C-401 C棟4階) Room F [C-401 4th floor of Bldg. C]
5 9:00 10:40	A5 企画セッション 日本における住所・土地の データ化を巡る新展開: ア ドレスベースレジストリと 地図XMLを事例に (自治体分科会・FOSS4G分 科会) 企画者: 青木 和人・岩崎 亘典・瀬戸 寿一	B5 企画セッション デジタルアース研究の 現状と将来展望 (2023) 企画者: 福井 弘道	C5 企画セッション (ハンズオン) データサイエンスのためのGI S講座 企画者: 土田 雅代	D5 防災	[9:40] E5 経済	[9:40] F5 景観・観光
6 11:00 12:40		B6 企画セッション シビックテックと防災GIS (防災GIS分科会) 企画者: 畑山 満則	C6 企画セッション (ハンズオン) ArcGIS API for Python体験 企画者: 土田 雅代	D6 移動・交通	E6 居住	F6 自然・環境
P2 13:00 14:00	ポスターセッション #2 @ポスター発表会場 (C棟1階 ホール)					
7 14:10 15:50	A7 企画セッション SIG-GISシンポジウム 企画者: 太田 守重	B7 企画セッション ジオテクノロジーズの提案 する地図・人流データ×リサ ーチ ～予測可能な世界の創出に 向けて～ 企画者: 中野 裕貴		D7 データ	E7 可視化	F7 空間解析手法 2
16:00 16:20	閉会式					

第32回研究発表大会 アクセスマップ



第32回研究発表大会 会場配置図



(4ページからの続き)

◆機器展示◆

■株式会社古今書院

GIS書籍の発行点数ナンバー1の出版社です。新刊に『地理総合とGIS教育』『はじめての地理院地図』『地理情報科学 GISスタンダード』などGISの基本図書、「ArcGIS」「QGIS」「MANDARA」など人気のGISソフトの活用マニュアルなど、GISビギナーからミドルユーザまで利用目的に応じた関連書籍を展示し、すべて15%引で販売します。出版企画のご相談も大歓迎です。

■ジオテクノロジー株式会社

ジオテクノロジーが保有する人流データの特徴や、これまで行ってきた人流データ×リサーチの取り組みをジオテクノロジーの社員が紹介いたします。人流データの取得数や連続性、精度が一目でわかるデモページもお試しいただけます。また今年より始まった産学連携の取り組みについても展示いたします。予測可能な世界の創出に向けたジオテクノロジーの取り組みを是非ご覧ください。

【分科会報告】

■ 地理空間情報標準調査会 (SIG-GIS)

【事務局長 太田守重 (国際航業)】

この度、GIS学会の理事会にご承認いただき、地理空間情報標準調査会(The Special Interest Group on Geospatial Information Standards)が発足しました。略して SIG-GIS と呼びます。そのキックオフミーティングとして、本年度のGIS学会学術研究発表大会においてSIG-GISシンポジウムを、10月29日に開催します。

ISO/TC 211 が制定した地理空間情報の国際標準は、96編(2023年8月現在)にのぼりますが、そのことは国内ではあまり知られていません。また、地理情報に関するデータ製品仕様の中には、標準に関する十分な知識がないまま作られ、運用されているケースもあると推測されます。さらに、複数種の地物の空間属性や主題属性などを統合的に利用した結果得られる情報の、品質及びその表示に関する議論もさらに深めるべきでしょう。このような問題意識のもと、村上広史先生(青山学院大学)を代表に仰ぎ、秋山祐樹先生(東京都市大学)、公益財団法人日本測量調査技術協会、一般財団法人デジタル道路地図協会、一般財団法人日本情報経済社会推進協会、国際航業、アジア航測、そして朝日航洋が、SIG-GISの創設を提案しました。

さて、本年度のGIS学会学術研究発表大会において、以下の予定でSIG-GISシンポジウムを開催します。

期日：10月29日(日) 14:10-15:50 (100分)

会場：A会場 新C棟2階C-203

村上広史先生の挨拶、笹川啓氏(ISO/TC 211 国内幹事会長、国土地理院)や秋山祐樹先生の発表をはじめとして、本会関係者の発表を準備しております。プログラムの詳細については、決まり次第、学会広報等を通じてご案内します。ご興味のある方は、是非お越しください。

【GIS 資格認定協会より】

GIS 資格認定協会では、GIS の活用・普及の推進に優れた功績を有し、長年 GIS 分野に貢献された方に GIS 名誉上級技術者の称号をお贈りしております。昨年度、関連学協会から推薦をいただき、GIS 資格認定協会審査委員会にて審議した結果、次の4名の方に GIS 名誉上級技術者称号を贈呈させていただきました。

長谷川均 氏 (日本地理学会推薦)

太田弘 氏 (日本地図学会推薦)

森亮 氏 (OSGeo 日本支部推薦)

大佛俊泰 氏 (地理情報システム学会推薦)

現在、新型コロナ禍により教育、貢献の機会の減少が生じている状況を考慮し、GIS 上級技術者有効期限が 2020 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の資格者につきましては有効期限を 1 年間延長する措置を行っております。更新に関するご不明な点は事務局までお問い合わせください。

例：

有効期限が 2023 年 8 月 31 日までの方は、2024 年 8 月 31 日まで延長されます。

更新申請は、本来の失効前 3 か月の 2023 年 6 月 1 日から、延長失効後 3 か月の 2024 年 11 月 30 日まで受け付けます。

8 月末時点の認定数は以下の通りです。

GIS 名誉上級技術者数 31 名

GIS 上級技術者数 79 名

教育認定プログラム数 11 件

(GISCA 大伴真吾)

【学会からのお知らせ】

■ 次期 一般社団法人地理情報システム学会 代議員公募のお知らせ

【選挙管理人 玉川英則】

今期代議員が本年12月31日に任期満了を迎えることに伴い、定款第17条による次期代議員の公募を下記の通り実施します。

会員の皆様の積極的なご応募をお願いします。なるべく全会員の構成を反映した代議員メンバーとなることを目指すため、多様な方々、特に今まで少数であった若手や女性の会員の積極的な立候補をお願いします。なお、学会を形成する委員会、支部、分科会の運営に関わる活動を行う代議員は、CPD 学習ポイントを申請することができます。

記

1. 代議員の定員(定款第16条)：30名以上50名以下
立候補者数に応じて、代議員選挙管理規程に基づき以下のように進めます。なお、投票を行う場合の選挙人は、正会員及び永年会員です。

- ・ 立候補者数が30名に満たない場合（規程第4条の3）：追加募集を行う
- ・ 同30名以上50名以下の場合（規程第5条）：信任投票を行う
- ・ 同50名を越える場合（規程第6条）：投票により50名を選出する
- 2. 立候補の資格（定款第17条の3）：正会員及び永年会員
- 3. 次期代議員の任期（定款第19条）：2024年1月1日～2025年12月31日
- 4. 代議員の主な役割：
 - ・ （定款18条）社員総会に出席し審議事項を審議し議決する。
 - ・ （定款24条）理事及び監事に選任される資格を持つ。
- 5. 立候補受付期間：2023年10月1日（日）～10月31日（火）
- 6. 立候補の方法：表題を「代議員立候補」とし、以下の①～⑥を記載したE-mailを事務局（maf-gisa@mynavi.jp）にお送りください。
 - ① 氏名
 - ② 所属
 - ③ 会員番号
 - ④ 連絡先（E-mailアドレス）
 - ⑤ 当学会での活動歴（役職等）又は抱負（200文字以内）←選挙人に公開されます
 - ⑥ 推薦人（正会員1名）の氏名と所属

■ 委員会、支部、分科会へのZoomの権限貸与について

本学会では、学会活動を活発化するために、各委員会、支部、分科会の会議に限り、学会事務局のZoomの権限を貸与します。

ご希望の方は、以下のルールに従ってお申込みください。

1. 事務局に原則として1週間前までに事前申請する会議の設定・開催は各グループの自由裁量とする。
2. ホストのグループを明示する。
3. 会議終了後には、開催記録（開催日時、参加者等）の基本情報を事務局に報告する。
4. 会議は必ずパスワード付きで開催し、第三者には明かさない

■ メールニュース受信についてのお願い

Bcc または配信先が多数のメールを受信できない設定の企業等団体の方で、学会メールニュースをお読みにになりたい方は、個人のメールアドレスを事務局までお知らせください。また、アドレスが変更になった場合は、変更届の提出をお願いいたします。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■ メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、掲載をご希望の方は、以下をご参照の上、事務局までお申し込み下さい。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html>

なお、ニュースの配信は、毎月第2・第4金曜日を目安にしています。

【学会後援行事等のお知らせ】

■ GIS Day in 四国 2023 （四国支部主催）

主催： 地理情報システム学会四国支部
 共催： 愛媛大学防災情報研究センター
 日時： 2023年10月25日（水）
 会場： 愛媛大学
 詳しくは… <http://shikokugis.blogspot.com/>

■ GIS Day in 東京 2023 （後援）

主催： 東京都立大学 都市環境学部
 日時： 2023年11月18日（土）
 会場： 東京都立大学 南大沢キャンパス
 詳しくは… <https://gisday.fpark.tmu.ac.jp>

■ GIS コミュニティフォーラム （後援）

主催： ESRI ジャパンユーザ会
 日時と会場：
 2023年10月5日（木） 名古屋コンベンションホール
 10月17日（火） アクロス福岡
 10月25日（水） ACU-A（札幌）
 11月2日（木） グランフロント大阪
 詳しくは… <https://www.esri.jp/events/gcf/gcf2018-autumn/>

2023 年 8 月 23 日現在の個人会員 1,102 名，賛助会員 50 社

賛助会員

朝日航洋(株)，アジア航測(株)，アドソル日進(株)，(株)インフォマティクス，ESRI ジャパン(株)，NEC ソリューションイノベータ(株)，愛媛県土地家屋調査士会，応用技術(株)，大阪土地家屋調査士会，(株)かんこう，関東中部 G 空間情報技術研究会，(財)岐阜県建設研究センター，九州 GIS 技術研究会，近畿北陸 G 空間情報技術研究会，(株)こうそく，国際航業(株)，国土情報開発(株)，(株)古今書院，GIS 支援センター，ジェイアール西日本コンサルタンツ(株)，(株)ジオテクノ関西，(株)ジオテクノロジーズ，(株)ゼンリン，中四国 G 空間情報技術研究会，デジタル北海道研究会，東北 G 空間情報技術研究会，(株)ドーン，長野県 G 空間情報技術協会，にいがた GIS 協議会，日本工営都市空間(株)，日本情報経済社会推進協会，日本スーパーマップ(株)，(財)日本測量調査技術協会，(財)日本地図センター，(一財)日本デジタル道路地図協会，パシフィックコンサルタンツ(株)，(株)パスコ，北海道 G 空間情報技術研究会，(株)マップクエスト，(株)マップル，(株)松本コンサルタント，三菱電機(株)，三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング(株)，(財)リモート・センシング技術センター，自治体会員：経済産業省特許庁，国土交通省国土地理院，総務省統計局統計研究研修所，(独)統計センター，長野県環境保全研究所，福岡県直方市

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部> 支部長：株式会社ドーコン 三好達也 連絡先：NPO 法人 Digital 北海道研究会 (内) Tel: 011-299-8104, E-mail: gisahokkaido@dghok.com <東北支部> 支部長：東北大学 井上亮 Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@tohoku.ac.jp <中部支部> 支部長：中部大学 福井弘道 連絡先：杉田暁 (中部大学) Tel: 0568-51-9894, E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp <関西支部> 支部長：大阪工業大学 吉川眞 連絡先：田中一成 (大阪工業大学) Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp	<中国支部> 支部長：広島修道大学 川瀬正樹 Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp <四国支部> 支部長：徳島大学 塚本章宏 Tel: 088-656-7616, E-mail: tsukamoto.akihiro@tokushima-u.ac.jp <九州支部> 支部長：九州大学 三谷泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp <沖縄支部> 支部長：沖縄国際大学 崎浜靖 E-mail: sakihama@okiu.ac.jp 連絡先：澤嵜直彦 (NPO 法人沖縄地理情報システム協議会) Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi7015keisayasaki@gmail.com
--	---

学会分科会連絡先一覧

■自治体：小泉和久 (千葉県浦安市) 事務局：青木和人 (あおきgis研究所) Tel: 050-5850-3290 E-mail: kazu013057@gmail.com ■ビジネス：高阪宏行 (地理情報技術研究所) Tel: 03-5379-5601 E-mail: info@georetail.tokyo ■防災GIS：畑山満則 (京都大学防災研究所) Tel: 0774-38-4333 E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp ■地図・空間表現：若林芳樹 (東京都立大学) Tel: 042-677-2601 E-mail: wakaba@tmu.ac.jp	■FOSS4G: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先：嘉山陽一 (朝日航洋(株)) Tel: 049-244-4032 E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp ■若手分科会：関口達也 (京都府立大学) Tel: 075-703-5428 E-mail: ta-sekiguchi@kpu.ac.jp ■GeoAI: 巖網林 (慶應義塾大学) Tel: 0466-49-3453 E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp
--	---

■編集後記■

先月上旬に2度めのコロナウィルス感染症にかかりました。昨年末に一度罹患していたので、免疫あるしもうだいじょうぶ、と思っていたのですが、認識が甘かった。出張先の北海道でもらってしまったようで、帰って家族に感染し、そのまま夏休みで帰省して、実家の高齢の両親にもきっちり感染してしまいました…。今は、既にみな寛解していますが、制度的なコロナ明けとは別に、実質的にはまだ流行が続いているのを実感することになってしまいました。今年は、早くもインフルエンザの流行もはじまっているようです。皆さん、気をつけて過ごしましょう…。

(中部大学 杉田暁)

地理情報システム学会ニューズレター 第127号 ●発行日2023年9月26日

■編集・発行

一般社団法人 地理情報システム学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル (株) 毎日学術フォーラム内
TEL: 03-6267-4550 / FAX: 03-6267-4555
E-mail: maf-gisa@mynavi.jp
URL: <https://www.gisa-japan.org/>